

海外安全対策情報（ポルトガル・2020年1月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

（1）治安情勢等

ア 犯罪発生状況

当国における2018年の犯罪認知総件数は333,223件で、2017年より2.6%減少した。このうち、凶悪犯罪認知件数は13,981件で、2017年よりも8.6%減少するなど、2003年以降最も低い水準となった。なお、顕著に増加した犯罪は、恐喝罪（+46.4%）、殺人罪（+34.1%）等である。

イ ポルトガルにおける強盗事件

EUROSTAT（EU統計局）によると、ポルトガルにおける2017年の強盗事件の認知件数は10万人当たり115件で、EU加盟国内で5番目に高い割合だった。EU域内全体では、10万人当たり39万6千件。

ウ リスボン首都圏における刃物を使用した犯罪の増加

PSPリスボン首都圏本部の管轄区域（リスボン、シントラ、カスカイス等9市）において、昨年1月から9月にかけて刃物を使用した犯罪が391件発生し、前年同期比10.4%増加した。その内、路上強盗で使用されたケースが最も多く243件だった。

エ タクシー運転手による運賃の不正請求

11月22日から27日にかけて、PSPリスボン首都圏本部は、正規運賃より高額な運賃を請求していたタクシー運転手4名を逮捕した。昨年1月から11月末現在で57名のタクシー運転手が不正請求で検挙されている。

（2）邦人被害

10～12月の間、大使館に届けられた邦人の犯罪被害件数は4件（前年同期間中、大使館への届出数は14件（なお、令和元年中における大使館への届出総件数は32件））。

依然として、観光客を狙ったスリ事件が多発しており、警察官による巡回が強化されている。

（ア）犯罪手口

強盗	0件
スリ	3件
置き引き	0件
車上ねらい	1件
手口不明	0件

(イ) 犯行時間帯

0～6時	0件
6～9時	0件
9～12時	1件
12～15時	0件
15～18時	2件
18～21時	1件
21～24時	0件
不明	0件

(ウ) 発生曜日

月曜日	0件
火曜日	0件
水曜日	0件
木曜日	1件
金曜日	2件
土曜日	0件
日曜日	1件

(エ) 発生場所

場所		件数
リスボン	リベルダーデ通り	1件
	バイシャ・シアード・アルファマ地区	0件
	ベレン地区	0件
	市電（28番，15番等）	0件
	その他交通機関内	1件
	ホテル、レストラン内	0件
	リスボン空港	0件
シントラ（ロカ岬，ペナ宮殿等）		0件
ポルト		2件
コインブラ		0件
上記以外		0件
不明		0件

(オ) 日本人被害例

- リベルダーデ通りを歩行中，気がついたら財布が盗まれていた。
- 市バスでジェロニモス修道院に行く途中，車内で鞆の中から財布を盗まれた。
- ポルトを散策中，後ろを歩いていた二人組の男に，背負っていたリュックサックを開けられ貴重品等を盗まれた。盗まれたことに気づき，「返して」と言ったところ，財布と手帳は返してくれたが，パスポートとポーチは持って行かれた。
- ポルト市内のスポーツ施設前に車を駐車していたところ，車内に置いていたバッグを盗まれた。

2 報道による凶悪犯罪等の事例（日付は2019年）

日本人を狙った被害の発生は認められなかったが、外国人や観光客が被害者となる事件が発生している。

- 10月13日夕刻、リスボン市内コロンボショッピングセンター近くの駐車場から車で出ようとした女性が、突然現れた男にけん銃で脅され、車に乗り込まれた。男は女性に現金を出すよう強要したが、女性が現金を持っていなかったため、車を降りてそのまま逃走した。
- 10月18日、リスボン市内カモンエス広場にあるベンチに座っていたドイツ人男性観光客が、隣に座った55歳の男にリュックサックを盗まれた。男は窃盗の常習犯で、レストランやカフェで観光客の隣に座り、鞆や財布を盗んでいた。
- 10月21日未明、リスボン市内カンポ・ペケーノ地区で、男性が3人組にけん銃様のものでも脅され、現金を奪われた。
- 11月20日午前5時過ぎ、リスボン市内カイス・ド・ソドレ地区で、泥酔状態だった男性が、警察官を装った2人組に所持品を奪われた。
- 12月14日7時半過ぎ、ポルト市内フォス地区にあるディスコ店の入り口に向かい、乗用車から何者かが発砲、入り口付近にいた2人が負傷し、病院に搬送された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ポルトガルにおけるテロ関連動向は把握されなかった。

4 誘拐事件発生状況

特になし。

5 対日感情

良好。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、脅迫や何らかの事件に巻き込まれたという事案の発生は報告されていない。